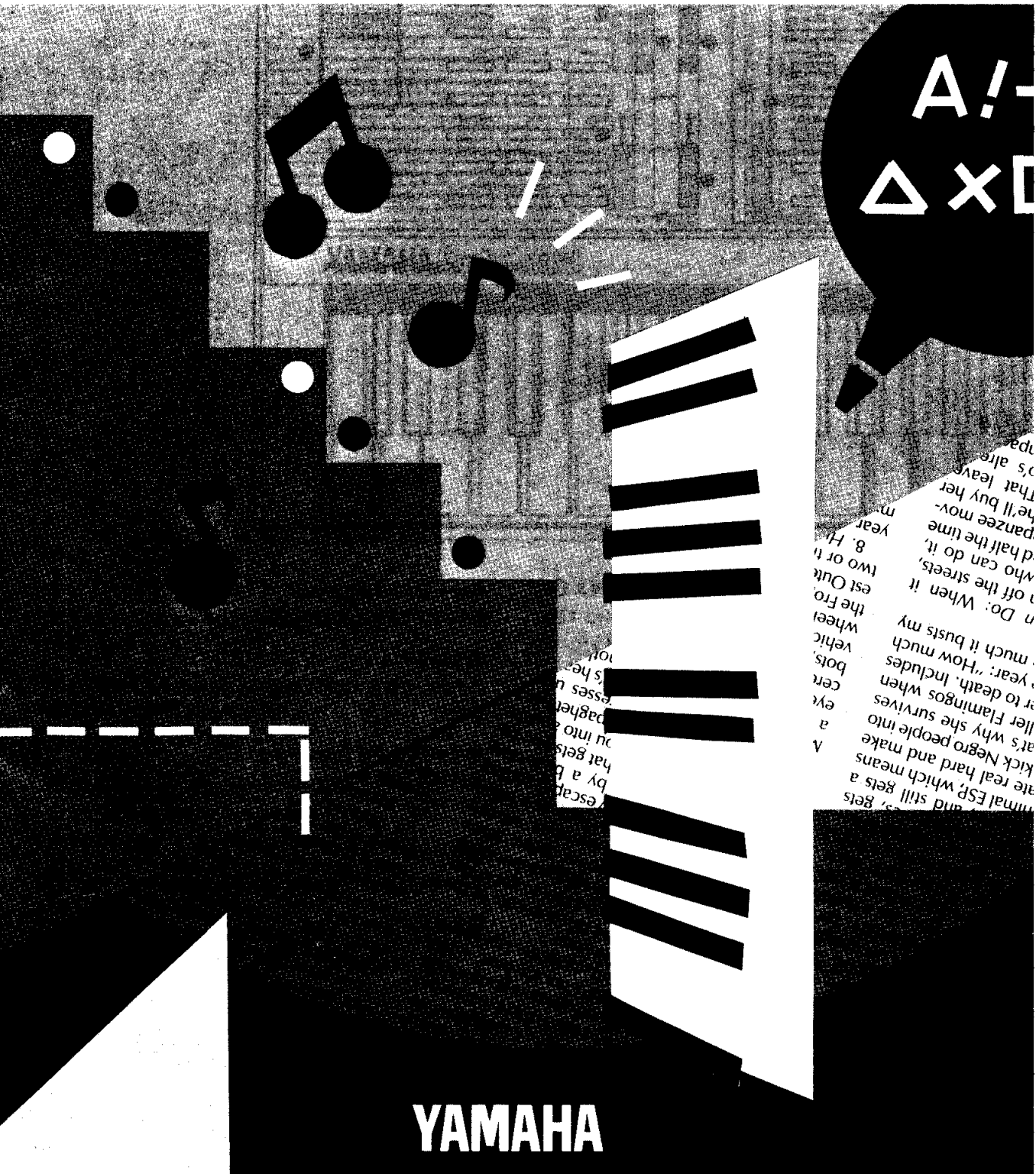


取扱説明書

PortaSound VSS-100

DIGITAL VOICE SAMPLER



YAMAHA

ごあいさつ

このたびはヤマハVSS-100をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

VSS-100は、ヤマハが世界に誇る先進のデジタル技術を駆使して完成させた画期的な鍵盤楽器です。

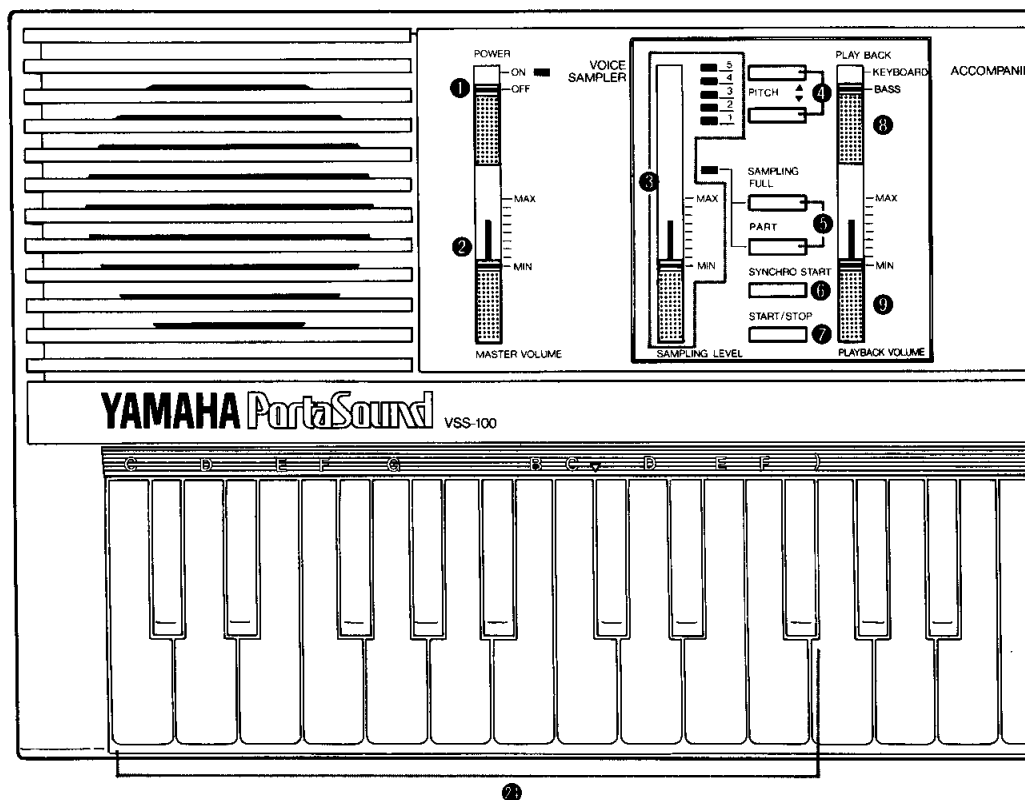
ポータブルキーボードとしては初めてのサンプリング機能を装備。最長8秒間ものサンプリング時間を持ち、さまざまな音を音源として演奏が楽しめます。また、サンプリング音を、VSS-100内蔵のオーケストラ音色とアンサンブルさせたり、自動伴奏のベースとして再生できるなど、今までのキーボードとは違った、まったく新しい世界を創りだすことができます。

本書では、このVSS-100の魅力を充分ご活用いただけますよう、正しい取扱いかたをご説明しています。実際に操作しながら、ぜひご活用ください。

もくじ

	(ページ)
各部の名称とその機能	1
ご使用の前に	3
ボイスサンプラー	4
●ボイスサンプラーフローチャート	5
●サンプリング	6
●プレイバック	8
オーケストラ	10
アカンパニメント	
1. シングルフィンガー	11
2. フィンガード	12
コード早見表	
●シングルフィンガーコード	13
●フィンガードコード	14
付属端子とオプション	16
故障と誤りやすい現象	17
仕様	18
アフターサービスと保証	19

各部の名称とそのはたらき



YAMAHA PortaSound VSS-100

① パワースイッチ/パイロットランプ

電源を入れるスイッチです。パイロットランプが点灯すれば電気が通じています。

② マスターボリューム

全体の音量を調節するレバーです。

ボイスサンプラー (4~9ページ)

③ サンプリングレベル/レベルランプ

音をサンプリング(録音)する時のレベルを調節します。レベルは1~5のレベルランプの点灯によって表示されます。

④ ピッチコントロール

サンプリング(録音)した音を再生する時、音程を調節することができます。ピッチを上げる時は▲、下げる時は▼を押します。

⑤ サンプリングセレクター

サンプリングを1ヶ所とする「フル」か、1オクターブごとに4ヶ所とする「パート」かを選ぶボタンです。

⑥ シンクロスタート

音声を感知すると同時にサンプリングを開始するボタンです。

⑦ スタート/ストップ

押すと同時にサンプリングを開始するボタンです。途中でサンプリングを止めたい時にも使えます。

⑧ プレイバックセレクター

再生する時に、鍵盤を弾いてサンプリング音をだす「キーボード」か、オートベースコードのベース音としてだす「ベース」かを選ぶスイッチです。

⑨ プレイバックボリューム

サンプリングした音を再生する時の音量を調節します。

アカンパニメント (11~15ページ)

⑩ テンポコントロール

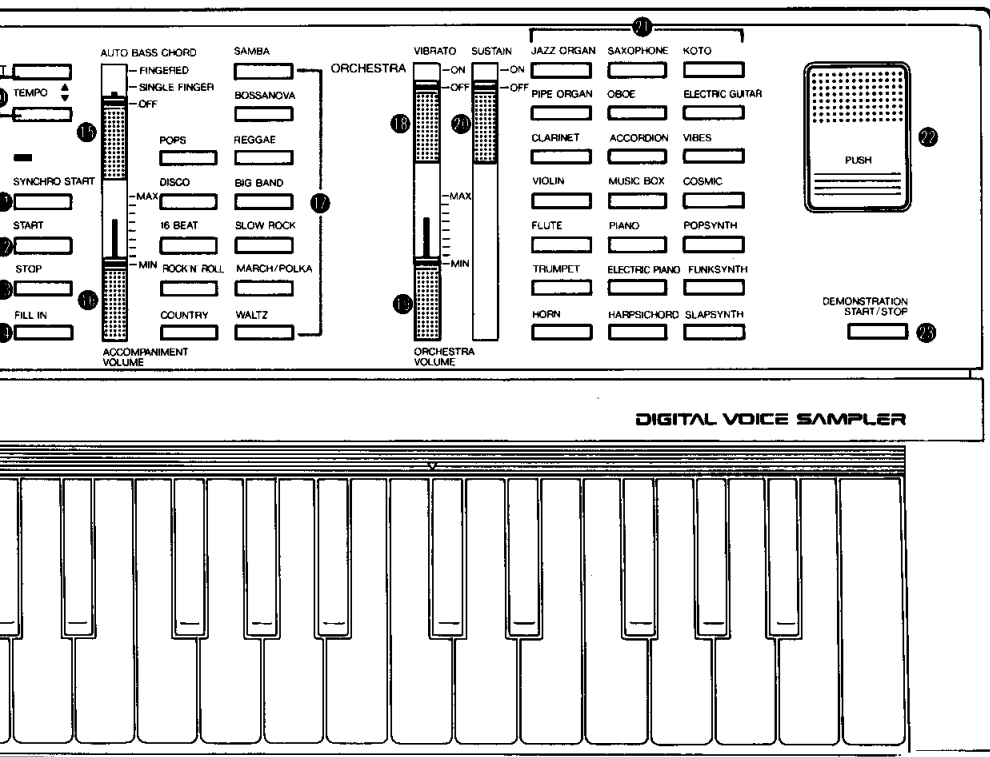
リズムのテンポを調節します。リズムを速くする時は▲、遅くする時は▼を押します。

⑪ シンクロスタート

演奏と同時にリズムをスタートさせるボタンです。オートベースコード用鍵盤を押すとリズムがスタートします。

⑫ スタート

リズムをスタートさせるボタンです。



⑬ストップ

リズムを止めるボタンです。

⑭フィルイン

リズムが鳴っている時にこのボタンをおすと、一時的にリズムが変化します。

⑮オートベースコードセレクター

自動伴奏をする時、指1本のシングルフィンガーコードか、和音をおさえるフィンガーコードを選ぶスイッチです。自動伴奏を使わないときは、OFFにします。

⑯アカンパニメントボリューム

リズムとオートベースコードの音量を調節するレバーです。

⑰リズムセレクター

リズムの種類を選ぶボタンです。

オーケストラ (10ページ)

⑱ビブラート

オーケストラ音色にうるおいを与えるビブラート効果のスイッチです。

⑲オーケストラボリューム

オーケストラ音色の音量を調節するレバーです。

⑳サステイン

オーケストラ音色に自然な余韻をつけるサステイン効果のスイッチです。

㉑オーケストラ音色セレクター

音色を選ぶボタンです。

㉒マイク

ボイスサンプラーで、サンプリング(録音)する時に使うマイクです。

㉓デモンストレーション

このボタンを押すと「喜びの歌」が自動演奏されます。もう1度押すととまります。

㉔オートベースコード用鍵盤部

自動伴奏を使って演奏するとき、伴奏を受けもつ鍵盤です。

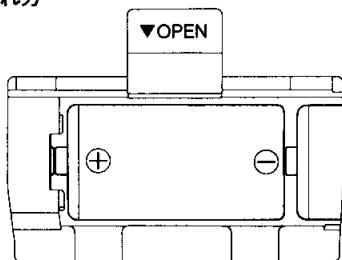
ご使用前に

ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

電源について

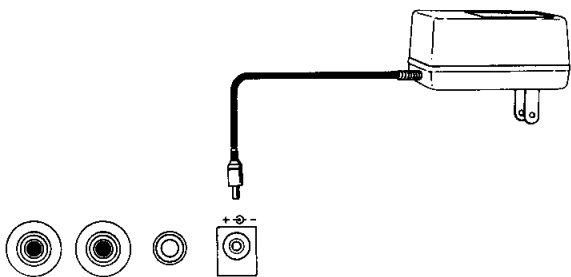
VSS-100の電源は、電池と家庭用コンセントの両方を使用することができます。家庭用コンセントを使用する時は、別売の専用アダプター(PA-1)を接続してください。

●電池の入れ方



まず、本体裏面にあるケースのふたをとります。単2の乾電池を一列に6個入れます。このとき⊕⊖の方向をまちがえないようご注意ください。パワースイッチを入れたとき、スイッチの横のパイロットランプが暗くなっていたら、電池がなくなり始めています。すべての電池を交換してください。

●電源アダプター(PA-1)の接続方法

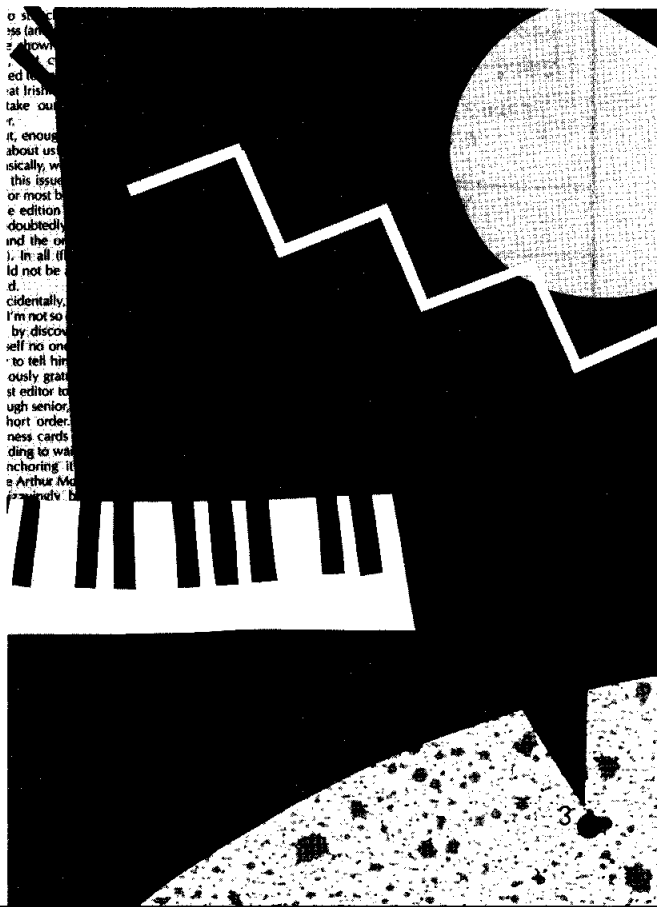


VSS-100の本体背面には、図のような付属端子がついています。電源アダプターのPA-1は、AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器ですから、付属端子の一番右側にある(DC9-12V IN)へ接続して電源を供給してください。

★PA-1以外のアダプターは使用しないで下さい。

取扱上の注意

- ①極端に温度が高い場所(60℃以上)に置いておくと本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっているとき、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。
- ②特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
- ③過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。
- ④本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきをするか、よごれのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があります。
- ⑤ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。電源が入ったまま長時間放置しておくと、故障の原因となることがあります。また、長い間使わないときは、電池を本体からぬいておいてください。電源アダプターも、使わないときは、プラグをぬいておいてください。



ボイスサンプラー

人や動物の声、車の音、ラジオやテレビの音など、あらゆる音声をキーボード演奏の音源にすることができます。そして、音声をVSS-100に音源として覚えさせることを「サンプリング」といいます。

●「サンプリング」の方法は、付属のマイクを使う場合と、ラインを使用する場合の2つあります。

●ひとつのサンプリングで49鍵全部を鳴らす「フル」と、オクターブごとに分けた4つのパートでそれぞれサンプリング・再生ができる「パート」の2つの方法があります。

●鍵盤を押えてサンプリング音をならすだけではなく、オートベースコード(自動伴奏)のベース音にすることもできます。

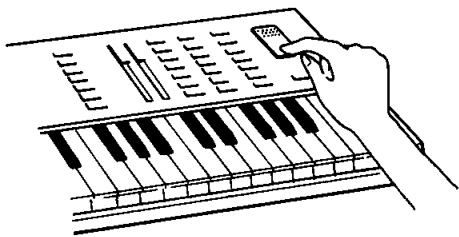
サンプリングの準備 <マイクとラインの2つの方法でサンプリングすることができます>

マイクを使用する場合

人や動物の声、モノをたたいたり、割ったり、落とした音、自然の音など、ナマの音声をサンプリングしたい場合にマイクを使用します。

●マイクのとりだしかた

マイクの「PUSH」と書かれているところを軽く押しとりだしてください。

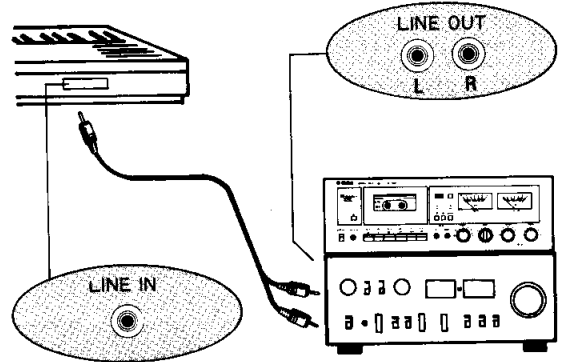


- ★コードを無理にひっぱったりしないように気をつけてください。
- ★しまう時は、あなの中にキチンとコードを入れ、マイクがフタになるように置いて軽く押します。
- ★ライン接続をしていると、マイクからのサンプリングはできません。

ラインを使用する場合

レコード、テープ、テレビやラジオなどから音をサンプリングする場合はラインを使用します。

●ライン接続のしかた



上の図のように、VSS-100のLINE IN端子とオーディオなどのLINE OUTを接続します。LINE OUTにL、Rがある場合はオプションの分岐接続コード(PC-2)を使用します。

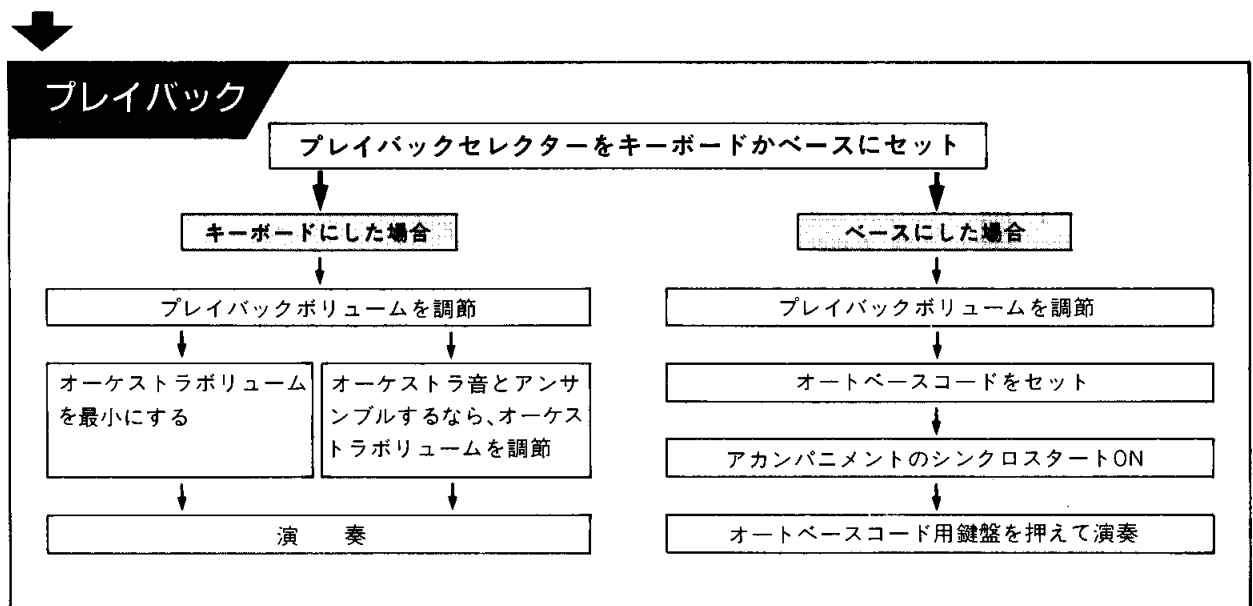
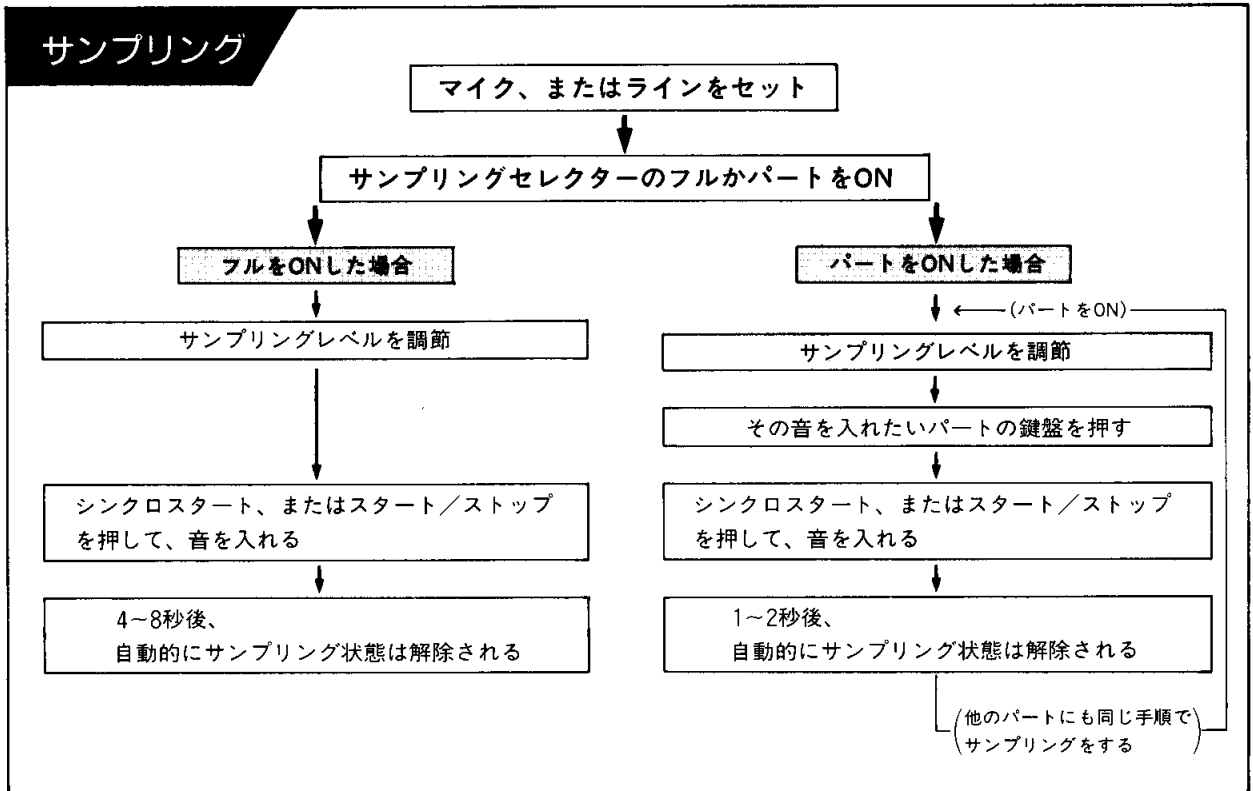
★バイオリン、ハーモニカなど倍音成分の多い音の場合、原音に忠実なサンプリング(録音)ができません。VSS-100のボイスサンプラーでは、サンプリング周波数に8kHz~16kHz

を採用しているため、実際に録音可能な周波数帯域は、2.5kHz~5kHzまでです。

ボイスサンプラー・フローチャート

サンプリングからプレイバックまでの操作の大きな流れをご紹介します。

くわしい説明は6～9ページをご参照ください。



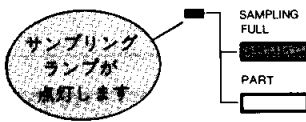
サンプリング

サンプリングには次の2種類があり、サンプリングセクターによってどちらかを選択します。

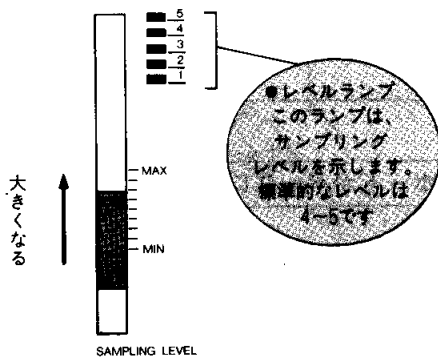
1. フル ● 鍵盤全体をひとつのサンプリング音で鳴らす場合。
 - サンプリング時間は4~8秒。
2. パート ● 鍵盤を1オクターブずつ4つのパートに分け、合計4種類のサンプリングを行う。
 - サンプリング時間は各パート1~2秒。

1. フルでサンプリング

1. サンプリングセクターのフルをON。



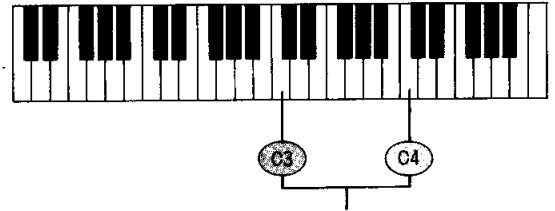
2. サンプリングレベルを調節。



サンプリングレベルのレバーを上げ、試しにサンプリングしたい音をだしてみましょう。音をだしている時、レベルランプが4~5くらいまで点灯するようにサンプリングレベルのレバーを調節します。

★音をだしている間、赤い5のランプが点灯したままになるとレベルが高すぎ、再生の時に音が歪みます。また、低すぎてもきれいなサンプリングができません。

3. サンプリングする音のキーを鍵盤で指定します。

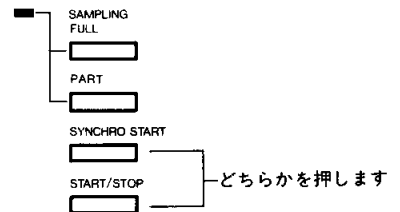


この範囲の鍵盤をひとつ押えます。

C3~C4の範囲で指定できますが、サンプリングする音の音程に最も近いキーを指定しましょう。また、いずれの鍵盤も押さなければ、自動的にC3が指定されます。

★指定した鍵盤によってサンプリング時間と精度は異なります。C3では8kHzでサンプリングを行い、8秒間のサンプリングができます。そして、音程が高くなるほどサンプリング周波数が上がり、高精度のサンプリングを行うことができます。C4では16kHzで4秒間のサンプリングをします。

4. シンクロスタート、スタート/ストップのいずれかを押して、音を入れます。



<シンクロスタート>

シンクロスタートを押すと、サンプリングランプが点滅し、サンプリングスタンバイの状態となります。マイクまたはラインを通して音を感じると同時にサンプリングが自動的にスタートします。

<スタート/ストップ>

このボタンは、押すと同時にサンプリングスタートとなるボタンです。レコードやテレビなどから一部分を切り取りたいときなどに便利です。もう1度押すと、サンプリングが停止します。

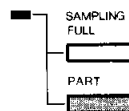
5. サンプリングのストップ。

シンクロススタート、スタート/ストップのいずれのボタンでサンプリングをスタートした場合でも、指定したキーのサンプリング時間(4~8秒)が過ぎれば自動的にサンプリングが停止し、サンプリングランプは消灯します。

- ★サンプリング時間内でサンプリングを止めたい時はスタート/ストップのボタンを押してください。
- ★サンプリングした音は、新しい音をサンプリングするか、パワースイッチをOFFにすると消去されます。
- ★前にサンプリングしたものよりも短い秒数でサンプリングをストップすると、ストップした後に前の音が残ります。
- ★サンプリング音を消去したい時は、パワースイッチをいったん切るか、レベルを最小(MIN)にしてサンプリングをしてください。

2. パートでサンプリング

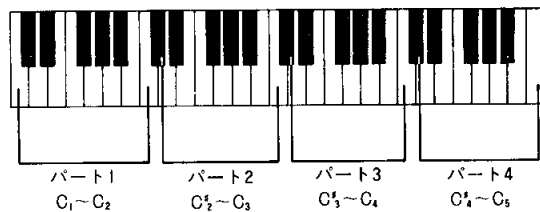
1. サンプリングセレクターのパートをON。



2. サンプリングレベルを調節。

3. サンプリングするパートを鍵盤で指定。

鍵盤は図のように4つのパートに分かれます。



そのサンプリング音を入れたいパートの鍵盤のいずれかを押しします。サンプリングする音の音程に最も近いキーを指定しましょう。

- ★いずれの鍵盤も押さないと、常にC2の鍵盤が指定されます。特にパート1にすでにサンプリングしたあとのパート2以降の際、何も指定しないとパート1のサンプリング音が書き換えられてしまうのでご注意ください。
- ★サンプリング時間は、各パートとも最低音がいちばん長くて2秒、高い音程を指定するほど短くなり最高音で1秒です。

4. シンクロススタート、スタート/ストップのいずれかを押しして音を入れます。

サンプリング時間が過ぎると自動的にサンプリングが停止し、サンプリングランプが消灯します。

プレイバック

5. もう1度パートのボタンを押し、違うパートにサンプリングをします。

1~4の手順をくり返して、他の3つのパートにもそれぞれサンプリングをします。

- これでサンプリングは終了です。プレイバック(再生)してみまよう。

NOTE: サンプリングテープについて

付属のサンプリングテープには、楽器音をはじめ、動物の声や自然の音などが、サンプリング用に収録されています。次の要領でご使用ください。

- テープは次のように構成されています。

(例)

ナンバー1 (声) → 無音 2秒 → コツ・コツ・コツ → (音) → 無音 2秒 → ナンバー2.....

サンプルナンバーを言った後、少ししてから「コツ・コツ・コツ」とカウントが3拍入り、4拍目はお休み、5拍目で音がスタートします。

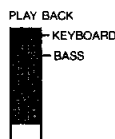
- 楽器音などのように立ち上がりから入れたいものは、4拍目でシンクロスタートをONしてください。
- 音の途中をとりたいという場合はスタート/ストップをうまく使ってください。
- 自分でもオリジナルのサンプリングテープをつくと便利です。サンプリングしたい音を、まずカセットテープに録音してからラインでサンプリングしましょう。

プレイバックには、次の2種類があり、プレイバックセクターによってどちらかを選択します。

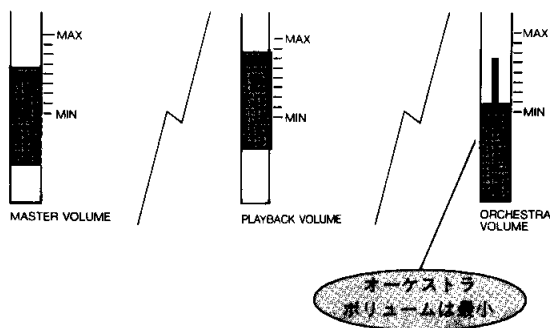
1. キーボード———弾いた鍵盤から、サンプリング音をだす。
2. ベース———オートベースコードのベースとしてサンプリング音をだす。

1. キーボードでプレイバック

1. プレイバックセクターをキーボードにセット。



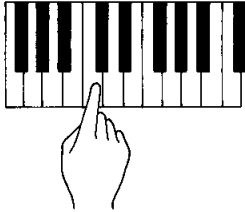
2. プレイバックボリュームを上げます。



プレイバックボリュームはサンプリングした音のみの音量調節です。最小の位置にあると音はでません。サンプリングした音のみを鍵盤からだしたい時は、オーケストラボリュームを最小にします。また、全体の音量を調節するマスターボリュームも忘れずに調節しましょう。

- ★オーケストラボリュームを上げれば、サンプリングした音と、オーケストラ音色とをアンサンプルさせて楽しむことができます。

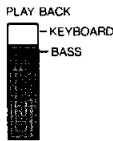
3. 鍵盤を押えてみましょう。



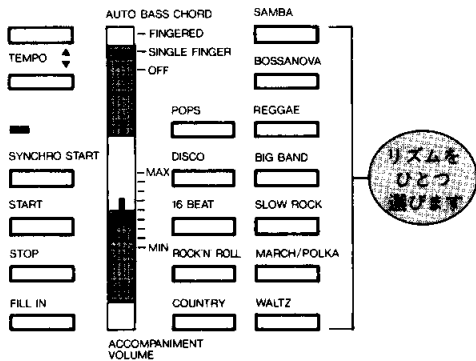
まず、サンプリングするときに指定した鍵盤を押えてみましょう。サンプリングしたものと同じ音が鳴りましたか？
 それでは、音階を弾いてみましょう。

2. ベースとしてプレイバック

1. プレイバックセレクターをベースにセット。

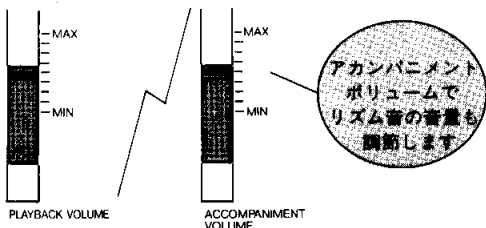


2. オートベースコードをセット。(11~12ページ参照)



好きなリズムをひとつ選んで押し、オートベースコードセレクターをシングルフィンガーか、フィンガードにセットします。

3. プレイバックボリュームを上げます。



4. シンクロスタートをON。



アコーディオンのシンクロスタートを押します。

5. オートベースコード用鍵盤を押えます。

リズムに合わせて、サンプリングした音がベースのパターンで鳴りはじめます。コードの音はでません。
 いろいろなリズムで鳴らしてみましょう。止めるときは、アコーディオンのストップのボタンを押します。

■デモンストレーションのボタンを押すと、サンプリング音のベース伴奏で「喜びの歌」が演奏されます。



★ベースとして再生される音程は、フルでサンプリングした場合でC3(まん中のド)がGのオートベース音、パートでサンプリングした場合でC1(左はじのド)がGのオートベース音となります。
 ★パートでサンプリングしたものをベースとして再生すると、パート1から鳴り、持続時間の長い時はパート2、3、4と順番に鳴ります。

■ピッチコントロール

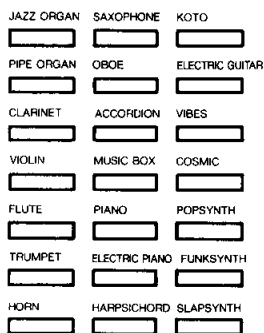


オーケストラ音色とアンサンブルをしたり、オートベースとして再生する時、また他の楽器とアンサンブルする場合など、サンプリング音を正確な音程でプレイバックしたい時はPITCHコントロールをご使用ください。▲を1回ONすることにより約7セントずつピッチが上がります、押しつづければ自動的に変わっていきます。▼を押せば、同様にピッチが下がります。また、両方同時に押すと、もとのピッチにもどります。

オーケストラ

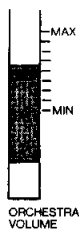
ここからは、ボイスサンプラーを離れて、VSS-100のもつ音色と伴奏機能を使って演奏しましょう。

1. オーケストラ音色セレクターから好きな音色をひとつ選んでON



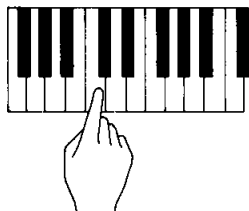
- ★同時に2つ以上の音色を選ぶことはできません。
- ★いずれかの音色セレクターをONするとその前に選ばれていた音色は自動的にキャンセルされます。

2. オーケストラボリュームを調節。



- ★最小の位置にあると音はでません。
- ★ボイスサンプラーのプレイバックボリュームは最小にしてください。

3. 鍵盤をおさえてみましょう。



いかがですか? 選んだ音色がでたことと思います。音色セレクターでいろいろな音色に変えて、メロディーを弾いてみましょう。

- ★同時に9音までの和音演奏ができます。ただし、リズムを使用すると6音、さらにオートベースコードも使用すると2音になります。

4. 効果を加えてみましょう。

ビブラート、サステインは音色の表情を変える効果のスイッチです。演奏する曲のイメージにあわせて使しましょう。

ビブラート



ビブラートをONにすると、音がこきざみにふるえ、うるおいのある響きになります。

サステイン



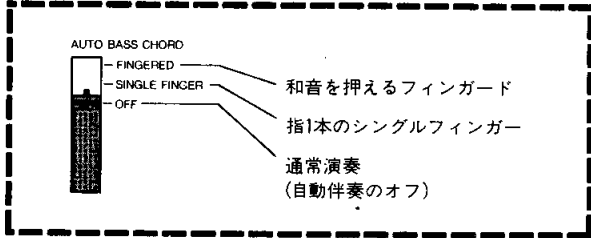
サステインは、音に自然な余韻をつける効果。鍵盤から指を離れたあとも音が残って自然に消えていくようになります。

- ★オーケストラ音色には、大きく分けて2種類あります。

持続音	ジャズオルガン、パイプオルガン、クラリネット、バイオリン、フルート、トランペット、ホルン、サクソフォーン、オーボエ、アコーディオン、スラップシンセ
減ずい音	ミュージックボックス、ピアノ、エレクトリックピアノ、ハープシコード、琴、エレクトリックギター、パイプ、コズミック、ポップシンセ、ファンクシンセ

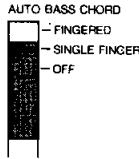
アカンパニメント

VSS-100のアカンパニメントは、指1本で自動伴奏をする「シングルフィンガー」、「和音を押える「フィンガード」の2種類から、オートベースコードセクターによって選べます。

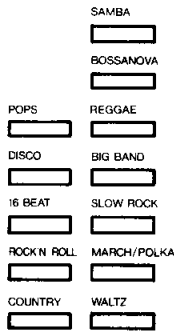


1. シングルフィンガー

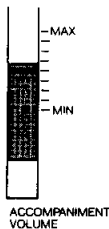
1. オートベースコードセクターをシングルフィンガーにセット。



2. リズムセクターから好きなリズムを選び、そのボタンを押します。



3. アカンパニメントボリュームを調節。



★最小の位置にあると音はでません。

4. シンクロスタートをON。



このボタンをおすと演奏スタンバイの状態となり、オートベースコード用鍵盤(C1~F#2)をおすと同時に選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。赤いランプでテンポを確認して、メロディーとリズムを同時にスタートさせることができます。もう1度おすとリズムが止まり、再び演奏スタンバイ状態にもどります。ブレイクなどの時に便利です。

〈スタート〉

ボタンをおすと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

5. オートベースコード用鍵盤をひとつおさえます。

オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムによってできます。

★鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。

★コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードは変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

★オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

6. テンポコントロールでテンポを調節。



▲のボタンを押せば速くなり、▼を押せば遅くなります。両方同時押しと、電源ON時にセットされるテンポにもどります。(J = 120)

★テンポは小節の頭で点灯する赤いランプによって確認できます。

7. フィルインを押してみましょう。



メロディーの切れ目など必要な時にフィルインを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズム(オカズ)に変わります。

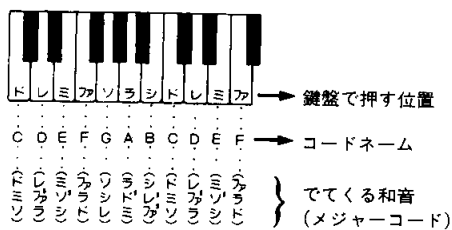
8. 自動伴奏を止める時はストップをON。



シングルフィンガーコードのだし方

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてくる和音の関係を示したものです。



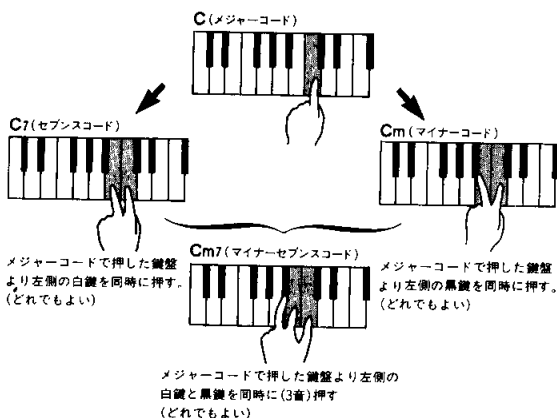
#, bのついているコードのだし方



#がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵をおせば、#・bのついたコードがだせます。

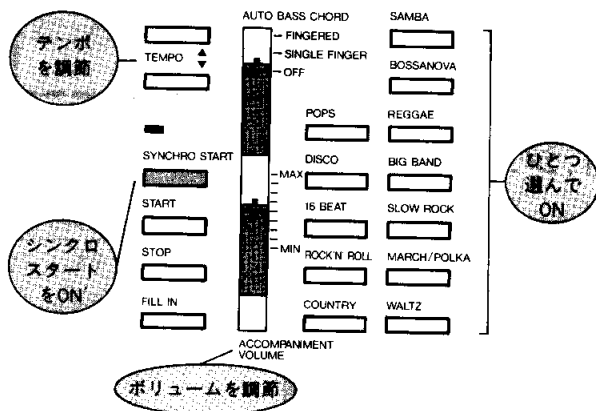
セブンスコード、マイナーコードのだし方

アルファベット1文字のコード(C, Dなど)をメジャーコードといいますが、伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば[G7]のようなセブンスコード、[Am]のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時におすことで出すことができます。

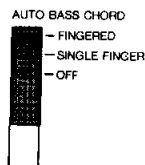


2.フィンガード

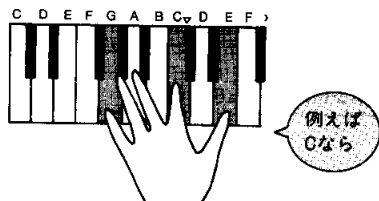
1.リズムをセット



2.オートベースコードセレクターをフィンガードにセット。



3.オートベースコード用鍵盤で和音をおさえます。







































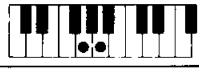











オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムにのってでてきます。

- ★鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。
- ★コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。
- ★オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

コード早見表

シングルフィンガーコード

メジャーコード		マイナーコード		セブンスコード		マイナーセブンスコード	
C		Cm		C7		Cm7	
D [♯] (C [♯])		D [♯] m (C [♯] m)		D [♯] 7 (C [♯] 7)		D [♯] m7 (C [♯] m7)	
D		Dm		D7		Dm7	
E [♯] (D [♯])		E [♯] m (D [♯] m)		E [♯] 7 (D [♯] 7)		E [♯] m7 (D [♯] m7)	
E		Em		E7		Em7	
F		Fm		F7		Fm7	
F [♯] (G [♯])		F [♯] m (G [♯] m)		F [♯] 7 (G [♯] 7)		F [♯] m7 (G [♯] m7)	
G		Gm		G7		Gm7	
A [♯] (G [♯])		A [♯] m (G [♯] m)		A [♯] 7 (G [♯] 7)		A [♯] m7 (G [♯] m7)	
A		Am		A7		Am7	
B [♯] (A [♯])		B [♯] m (A [♯] m)		B [♯] 7 (A [♯] 7)		B [♯] m7 (A [♯] m7)	
B		Bm		B7		Bm7	

フィンガードコード

メジャーコード

マイナーコード

セブンスコード

マイナーセブンスコード

C	
D [♯] (C [♯])	
D	
E [♯] (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G [♯])	
G	
A [♯] (G [♯])	
A	
B [♯] (A [♯])	
B	

C _m	
D [♯] _m (C [♯] _m)	
D _m	
E [♯] _m (D [♯] _m)	
E _m	
F _m	
F [♯] _m (G [♯] _m)	
G _m	
A [♯] _m (G [♯] _m)	
A _m	
B [♯] _m (A [♯] _m)	
B _m	

C ₇	
D [♯] ₇ (C [♯] ₇)	
D ₇	
E [♯] ₇ (D [♯] ₇)	
E ₇	
F ₇	
F [♯] ₇ (G [♯] ₇)	
G ₇	
A [♯] ₇ (G [♯] ₇)	
* A ₇	
* B [♯] ₇ (A [♯] ₇)	
* B ₇	

C _{m7}	
D [♯] _{m7} (C [♯] _{m7})	
D _{m7}	
E [♯] _{m7} (D [♯] _{m7})	
E _{m7}	
F _{m7}	
F [♯] _{m7} (G [♯] _{m7})	
G _{m7}	
A [♯] _{m7} (G [♯] _{m7})	
* A _{m7}	
* B [♯] _{m7} (A [♯] _{m7})	
* B _{m7}	

メジャーセブンスコード

ディミニッシュコード

マイナーセブンス
フラットテッドフィフスコード

セブンスサス・フォー
コード

Cmaj7	
D [♯] maj7 (C [♯] maj7)	
Dmaj7	
E [♯] maj7 (D [♯] maj7)	
E [♭] maj7	
Fmaj7	
F [♯] maj7 (G [♯] maj7)	
Gmaj7	
* A [♯] maj7 (G [♯] maj7)	
* Amaj7	
* B [♯] maj7 (A [♯] maj7)	
* Bmaj7	

Cdim	
D [♯] dim (C [♯] dim)	
Ddim	
E [♯] dim (D [♯] dim)	
E [♭] dim	
Fdim	
F [♯] dim (G [♯] dim)	
Gdim	
* A [♯] dim (G [♯] dim)	
* Adim	
* B [♯] dim (A [♯] dim)	
* Bdim	

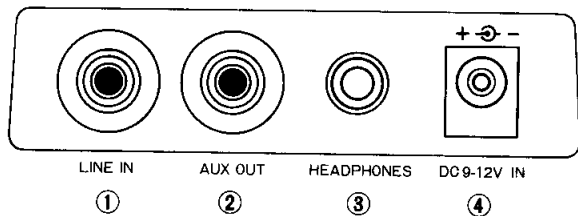
Cm7 ⁻⁵	
D [♯] m7 ⁻⁵ (C [♯] m7 ⁻⁵)	
Dm7 ⁻⁵	
E [♯] m7 ⁻⁵ (D [♯] m7 ⁻⁵)	
E [♭] m7 ⁻⁵	
Fm7 ⁻⁵	
F [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵)	
Gm7 ⁻⁵	
* A [♯] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵)	
* Am7 ⁻⁵	
* B [♯] m7 ⁻⁵ (A [♯] m7 ⁻⁵)	
* Bm7 ⁻⁵	

C7sus4	
C [♯] 7sus4 (D [♯] 7sus4)	
D7sus4	
E [♯] 7sus4 (D [♯] 7sus4)	
E [♭] 7sus4	
F7sus4	
F [♯] 7sus4 (G [♯] 7sus4)	
G7sus4	
* A [♯] 7sus4 (G [♯] 7sus4)	
* A7sus4	
* B [♯] 7sus4 (A [♯] 7sus4)	
* B7sus4	

*は転回型、他は基本型です。

付属端子とオプション

VSS-100の本体背面には、図のような外部端子がついています。これらを活用すれば、VSS-100の楽しさはいっそう広がります。



①LINE IN端子

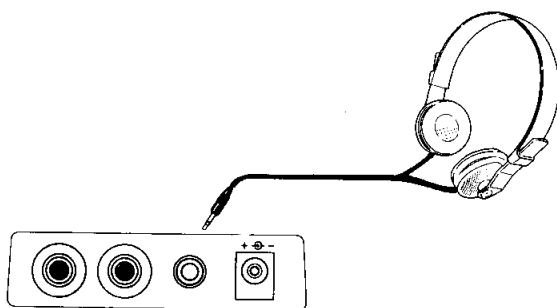
ラインを使ってサンプリングしたい時、この端子とオーディオなどのLINE OUT端子を接続します。(くわしくは4ページをご参照ください。)

②AUX OUT端子

ご家庭のオーディオなど出力の大きなスピーカーに接続すると、迫力あるサウンドをいっそうお楽しみいただけます。この端子を使って、オーディオなどのLINE IN端子に接続してください。

③HEADPHONES端子

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。ヘッドホンを使うと、本体のスピーカーからは音が出ませんから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。

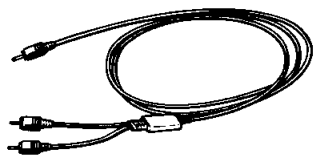


④DC9-12V IN端子

家庭用コンセントから電源をとるときに使う端子です。専用アダプター〔PA-1〕を接続してください。

オプション(別売付属品)

●分岐接続コード(PC-2) ¥1,000

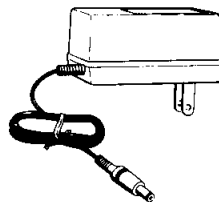


●ステレオヘッドホン〔YHD-3〕 ¥5,500



●電源アダプター〔PA-1〕 ¥2,000

AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器です。本体の〔DC9-12V IN〕へ電源を供給します。



●専用ソフトケース〔SCC-15〕 ¥2,500

故障と誤りやすい現象

現象	原因	解決法	
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。	
音色セレクターで選んだ音色とは別の音色がでる。	①ボリュームが最小の位置にある。 ②オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部で弾いている。 ③ボイスサンプラーのボリュームが上がっている。	①オーケストラボリュームを上げてください。 ②オートベースコードを使っているとき、オートベースコード用鍵盤部の音色は選んだ音色と関係ありません。 ③ボイスサンプラーのプレイバックボリュームを最小にしてください。	
鍵盤を同時に10音おさえても9音しかでない。また、オートベースコードを使っているとき、鍵盤を同時に3音おさえても2音しかでない。	音色は同時に9音までしかでないようになっています。また、リズムを使っているときは6音、さらにオートベースコードを使うと2音しかでないようになっています。また、リズムをスタートせずにオートベースコードを使用した場合は5音です。	先におさえた音が優先します。	
リズムの音がでない。	①スタートボタンがどちらも押されていない。 ②シンクロスタートボタンを押してオートベースコード用鍵盤を押していない。 ③アカンパニメントボリュームが最小の位置にある。	①②③11ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。	
オートベースコードの音がでない。または、リズムにのらない。	①オートベースコードスイッチがOFFの位置にある。 ②オートベースコード用鍵盤をおさえていない。 ③アカンパニメントボリュームが最小になっている。 ④リズムがセットされていない。 ⑤ボイスサンプラーのプレイバックセレクターがベースにセットされている。	①②③④11～12ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ⑤プレイバックセレクターをキーボードにしてください。	
オートベースコードで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤を指を離さずに弾いているため。	コードを変えるときは、いちど鍵盤から指をはなすようにしてください。	
ボイスサンプラー使用時	サンプリングした音が再生されない。	①プレイバックセレクターがベースになっている。 ②プレイバックボリュームが最小の位置にある。 ③パートでサンプリングしたとき、ちがうパートの鍵盤を押えている。	①②③8～9ページの説明をお読みください。
	サンプリングしたのと、ちがう音がでる。また、パートでサンプリングしたとき、サンプリングをしていないところの鍵盤から音がでる。	①前にサンプリングした音より短い秒数のサンプリングをしたため、前のものが消えていない。 ②電源ON時、内蔵の記憶装置(RAM)に音が入っているため。 ③オーケストラのボリュームが上がっている。	①②いちど、サンプリングレベルを最小にし、フルをONしてサンプリングをスタートさせて消去してください。 ③オーケストラのボリュームを最小にしてください。
	サンプリング音のあとに、雑音が残る。	録音方式(ADPCM)のため、音声途切れた時に多少の雑音が残ります。	

仕様

●鍵盤

ミニ鍵盤49鍵(C1~C5)

●ボイスサンプラー

サンプリング方式:4bit ADPCM
サンプリング時間:8秒(8kHz) ~
4秒(16kHz)

サンプリングセレクター

(フル/パート)

シンクロスタート

スタート/ストップ

サンプリングレベルコントロール

レベルランプ

ピッチコントロール(▲、▼)

プレイバックセレクター

(キーボード/ベース)

プレイバックボリューム

マイク

●オーケストラ

〈音色セレクター〉

ジャズオルガン

パイプオルガン

クラリネット

バイオリン

フルート

トランペット

ホルン

サクソフォン

オーボエ

アコーディオン

ミュージックボックス

ピアノ

エレクトリックピアノ

ハープシコード

琴

エレクトリックギター

バイブ

コズミック

ポップシンセ

ファンクシンセ

スラップシンセ

〈音色コントロール〉

ビブラート オン/オフ

サステイン オン/オフ

オーケストラボリューム

●アカンパニメント

〈リズムセレクター〉

ポップス

ディスコ

16ビート

ロックンロール

カントリー

サンバ

ボサノバ

レゲエ

ビッグバンド

スローロック

マーチ/ポルカ

ワルツ

〈オートベースコードセレクター〉

フィンガード/シングルフィンガー/オフ

〈アカンパニメントコントロール〉

シンクロスタート

スタート

ストップ

テンポコントロール

テンポランプ

フィルイン

アカンパニメントボリューム

●その他のコントロール

パワーオン/オフスイッチ

パイロットランプ

マスターボリューム

デモンストレーション スタート/ストップ

●メインアンプ

2.0W(4Ω負荷)

●スピーカー

9cm(4Ω)

●定格電源

DC9V:単2乾電池6個

:電源アダプター(PA-1)

●消費電力

電源アダプター(PA-1)使用時:3.5W

電池使用時:2.7W

電池寿命:通常演奏で連続10時間以上

●付属端子

LINE IN JACK

AUX OUT JACK

HEADPHONES JACK

DC9-12V IN JACK

●寸法・外装

本体材質:スチロール樹脂

間口:621mm

奥行:229mm

高さ:57mm

重量:2.4kg

(電池重量含まず)

●付属品

単2乾電池6個

サンプリングテープ

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

(日本国内のみ有効)

■保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項をいま一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けて点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めて昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.0252-43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸龜町8-7 日本楽器高松店内 TEL.0878-22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL.011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.0222-36-0222
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL.0534-56-9211

(本社)

電音サービス部 技術課 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534-65-1111

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

本 社／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL.03(572)3111

大阪支店／〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館
TEL.06(251)1111

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5141

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2151

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL.011(512)6113

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL.0222(22)6141

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3744

浜松支店／〒430 浜松市鍛冶町321-6
TEL.0534(54)4116

